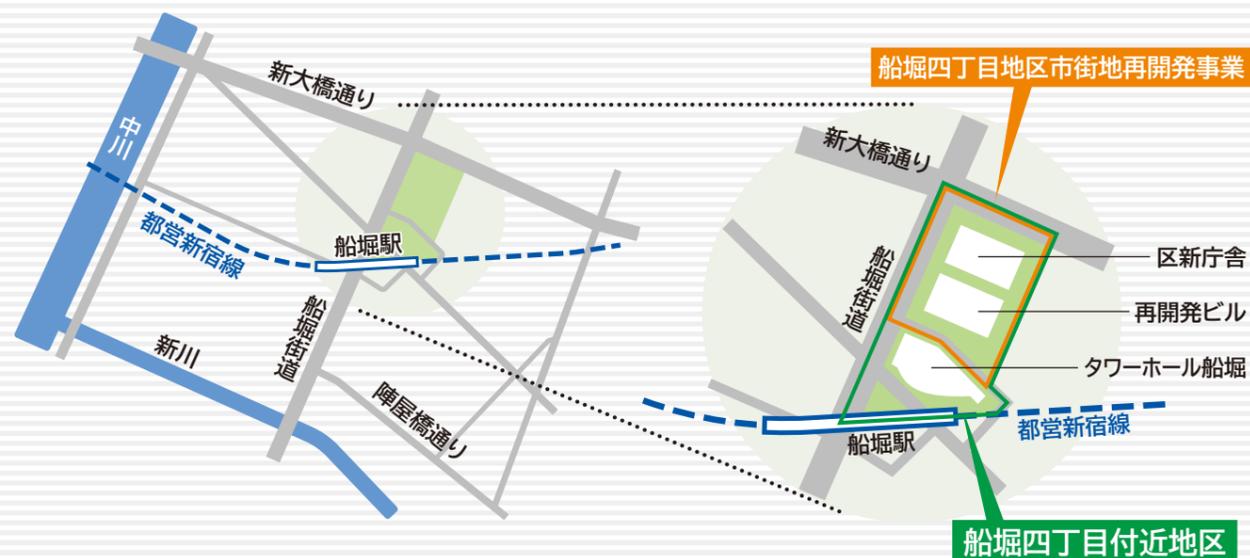


船堀四丁目付近地区

景観形成ガイドライン



○本ガイドラインは、船堀四丁目地区市街地再開発事業（区新庁舎および再開発ビル）の区域に、タワーホール船堀及び船堀駅北口駅前広場を加えた範囲を対象としており、市街地再開発事業との区域の違いを示すため「船堀四丁目付近地区」と表現しています。

本ガイドラインは… 「江戸川区都市計画マスタープラン」「江戸川区景観計画」「船堀駅周辺地区まちづくり基本構想」「江戸川区新庁舎建設基本構想・基本計画」「船堀駅周辺地区地区計画」「船堀駅周辺第三地区地区計画」に記載している内容のうち、船堀四丁目付近地区の景観づくりの考え方を示したものです。

船堀四丁目付近地区景観づくりの考え方

船堀四丁目付近地区は区のほぼ中央に位置し、西に船堀街道、北に新大橋通り、駅前には広場と区の文化の発信拠点であるタワーホール船堀が立地しています。今後、市街地再開発事業で、区新庁舎や複合施設*の整備が予定され、まちの景観が大きく変わる契機を迎えています。このため、これら拠点施設と既存市街地や幹線道路、船堀グリーンロードとの調和を図ることを目的として、景観ガイドラインを作成しました。

※当ガイドラインでは「再開発ビル」と表記する

1 区民が親しみと誇りを持てる区の中をつくる

- タワーホール船堀と区新庁舎、再開発ビルの3棟の拠点施設が調和した景観を形成するよう、色彩や形態などに配慮する。
- 3棟の拠点施設が、区の新たな中心地として区民や来訪者の印象に残るようなスカイライン(シルエット)を形成し、船堀に帰ってきた・船堀に着いたと感じられる安心感を与える景観を形成する。
- 特に高層部は遠景の見え方を意識し、空との調和に配慮する。



タワーホール船堀（荒川からの遠景）

2 魅力ある、居心地の良い空間をつくる

店舗やガラス面により賑わいを生む例（表参道ヒルズ）



気軽にくつろげるスペースの例（ラゾーナ川崎）



- 船堀街道の沿道は、店舗やガラス面により賑わいを生むとともに、水とみどり豊かな景観を育む。
- 新大橋通り沿道は、ゆとりある歩行者空間を整備するとともに、みどりの連続性を感じる潤いのある空間を整備する。
- ペDESTリアンデッキは明るく軽快なデザインとする。
- だれもが気軽にくつろげるスペースを点在させる。
- 自然素材や緑化を積極的に活用して、居心地よく、愛着の持てる環境を形成する。

船堀四丁目付近地区ガイドライン

船堀街道沿いのデザイン

- ▶ 外向き店舗やオープンテラス等による賑わいの形成
- ▶ 屋上ひろばやテラス部分を活用した立体的な緑化と賑わいの形成
- ▶ タワーホール船堀や船堀グリーンロードなどの周辺環境と調和した、ゆとりと潤いのある歩行者空間を形成
- ▶ 交差点部の顔づくり
- ▶ 軽快で明るいペDESTリアンデッキにより、浸水深以上の高さでウォークアブルな都市空間を形成
- ▶ ペDESTリアンデッキと調和する低層階ファサード
- ▶ 駅とのつながりを意識し、人の流れを効果的に誘導

オープンテラスの例(コレド室町)



テラス席の例(テラスモール湘南)



軽快なペDESTリアンデッキの例(秋葉原) 立体的な緑化の例(東京スクエアガーデン)

コミュニティ広場のデザイン

- ▶ 来場者がくつろぎ、親しみを感じられる、水とみどりによる心地よい空間の演出
- ▶ ペDESTリアンデッキやテラス、階段等も活用した一体的な空間演出とイベント利用
- ▶ 広場周辺に店舗やオープンテラスなどによる賑わいの形成
- ▶ 円滑な災害対応活動を実現する空間の形成



水とみどりによる空間演出の例
水をイメージした舗装と噴水(ららぽーと横浜)



階段をステージに活用する例
(八戸マチニワ)



新大橋通り沿いのデザイン

- ▶ 建物の屋上広場へのみどりの配置や、部分的な張り出しなど分節化で表情を与える
- ▶ 船堀グリーンロードからつながるみどりのネットワークと歩道状空地の整備により、ゆとりとうるおいのある歩行者空間の形成
- ▶ 交差点部の顔づくり

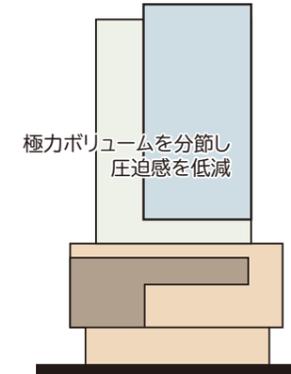


駐輪場や壁面の緑化の例（アリオ北砂）



広い歩行者空間とみどりの例（豊洲）

■ 建物の分節

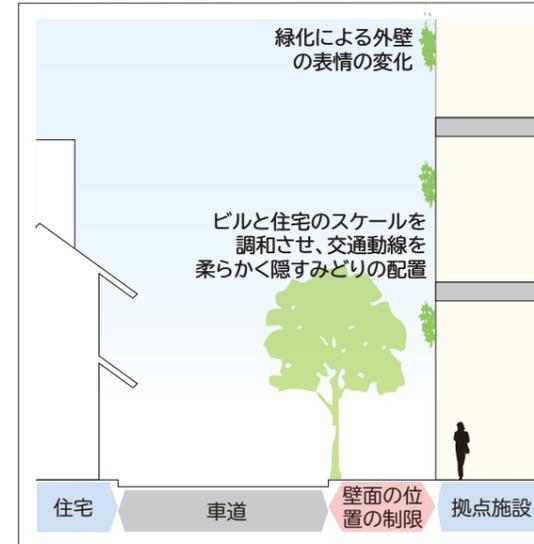


周辺道路

- ▶ 拠点施設と住宅のスケールを緩和させ交通動線を柔らかく隠すみどりの配置
- ▶ 緑化等による壁面の表情の変化
- ▶ 駐車場の出入り口は歩行者の安全性と景観に配慮
- ▶ 低層部は落ち着いた色調と暖かみのある仕上げによりヒューマンスケールの空間づくり



駐車場の壁面緑化による表情の変化の例（豊洲フロント）



拠点施設と周辺市街地をつなぐアプローチ

- ▶ 東側周辺市街地から拠点施設へのアプローチとなるスポットの顔づくり
- ▶ 建物の圧迫感を軽減し、船堀街道側に自然に誘導するみどりのある散歩道
- ▶ 交流施設やコミュニティ広場とシームレスにつながる散歩道



みどりのある散歩道の例（平河町森タワー）



広場とシームレスな交流施設の例（アオーレ長岡）

■ 3棟の拠点施設による一体感の演出

○ 3棟の拠点施設が、一つのまとまりのあるゾーンとして意識できるように、外周道路や建物の外構部において、舗装の統一や緑化などにより一体感を演出する

■ 夜間景観の形成について

① 建築物の高層部の照明

- タワーホール船堀は地域のシンボルとして、ライトアップなどによる演出を行う
- 区新庁舎、再開発ビルはタワーホール船堀のシンボル性を損なわないよう調和に配慮する

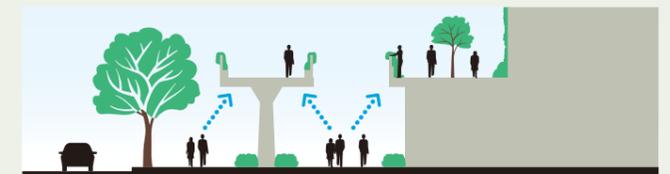
② 建築物の低層部の照明

- 幹線道路沿いは路線の連続性や一体感に配慮し、賑わいや個性を創出する
- 周辺道路では不快な光を抑制し、適切な色温度により住宅地との調和に配慮する
- 屋外広告物は船堀グリーンロードとの調和に配慮し、過度な照明は避ける

※上記に加え、東京都の「良好な夜間景観形成のための建築計画の手引き」を活用する

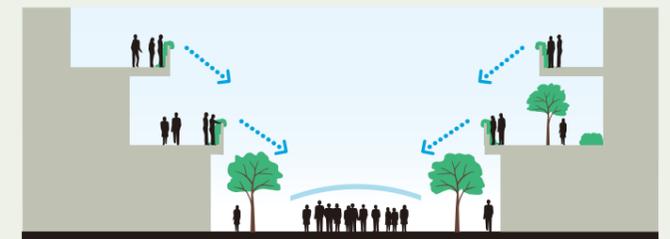
■ 高台まちづくりにおける景観形成

① 地上歩行者からの視線を意識



- ペDESTリアンデッキや建物による閉塞感をおさえる工夫
- ペDESTリアンデッキ直下における賑わいを意識した活用
- 地上、見上げの際のみどりの効果的活用

② デッキや屋上空間からの視線を意識



- 地上の「歩行者空間や広場空間」とのつながりを意識（上下層の分断を避け、一体的な賑わい、回遊性を確保）

③ 周辺市街地とのまちなみの調和を意識

- まちなみと調和したペDESTリアンデッキのしつらえ
- みどりの連続性を確保
- 周辺市街地への賑わいの波及

3 出会いと交流を育む場をつくる

■まちかどにコミュニティ広場等を設けて、人と人が出会う場を創出し、多世代・多文化の交流や本区が目指す共生社会の実現を図る。

■拠点施設と周辺市街地、公共施設と民間施設、地上とペDESTリアンデッキ上、建物の内外など、異なる空間と空間に連続性をもたせ、様々な人々の交流を育む。

■各種イベントを行えるコミュニティ広場を整備し、日常時の区民活動や災害時の防災情報などの発信機能を担う。



交流を育むイベント利用の例（日本橋）



空間をつなぐペDESTリアンデッキの例（京急蒲田駅）

4 拠点施設と周辺市街地を調和させる



みどりのバッファーズーンの例（流山おおたかの森S・C）

■高層階を道路より後退させ、周辺市街地への圧迫感を軽減する。

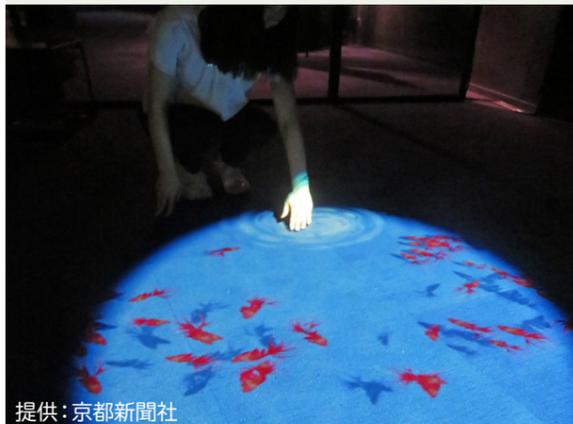
■大規模な拠点施設と周辺市街地との空間に、みどりのバッファーズーンを設けるなど、周辺市街地との調和を図る。

■拠点施設へのエントランス空間を設け、周辺市街地とのにじみ空間を確保する。

5 船堀の記憶を継承し、未来を志向する

■古川・新川（旧船堀川）などの豊かな水に育まれた船堀の記憶をモチーフとしたデザインや景観の形成を図る。

地域の記憶を継承する仕掛けの例
プロジェクションマッピングによる金魚投影（京都水族館）



提供：京都新聞社

■SDGsや共生社会を実現化する様々な取り組みをデザインや装置に活用・表現する。

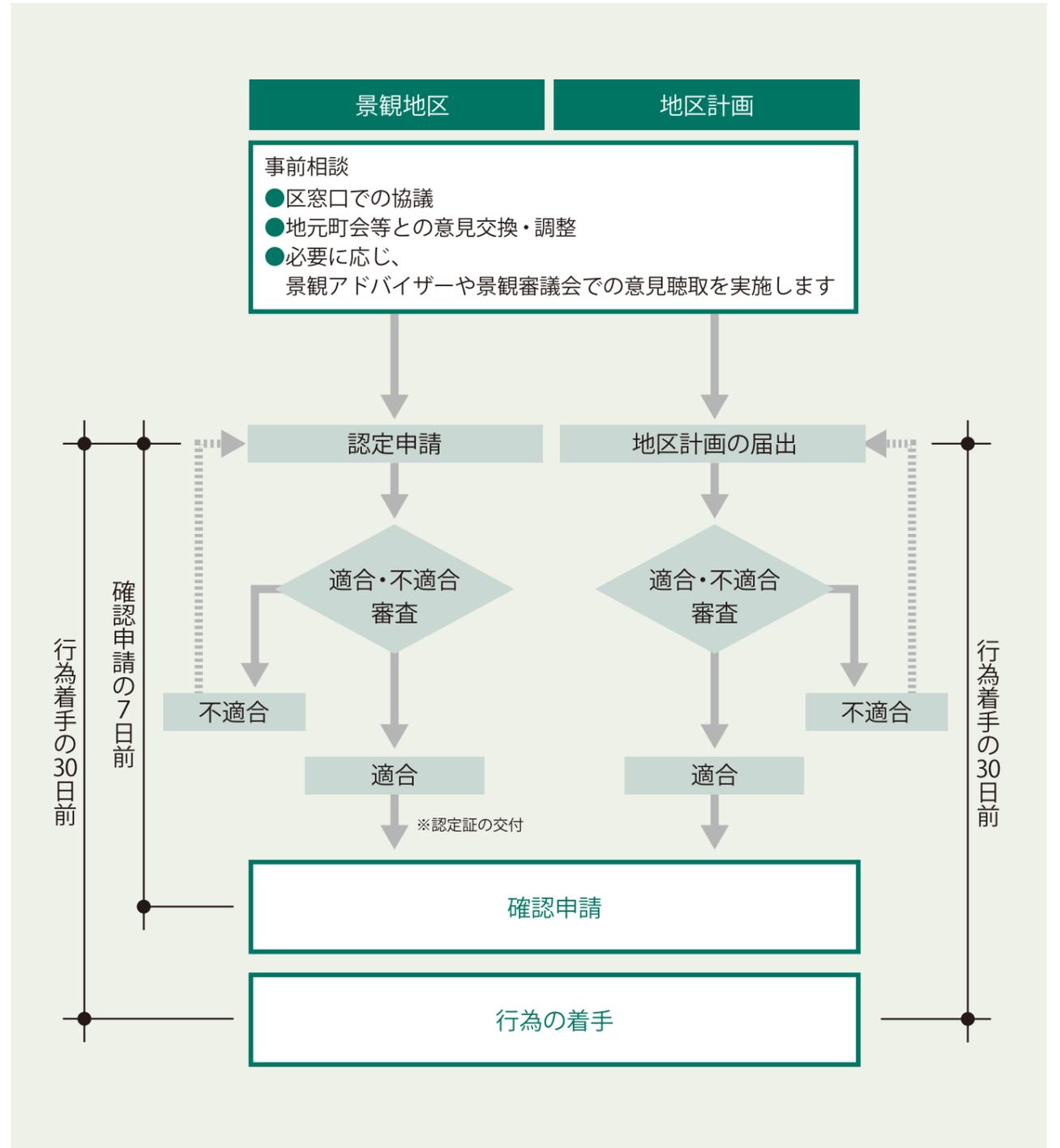
■高台まちづくりの実現による多層的な景観を形成する。

環境への配慮の例
壁面緑化と壁面のソーラーパネル（グランツリー武蔵小杉）



設計・協議のプロセス

行為の着手に至る協議・調整の流れは下記の通りです。あらゆる場面でガイドラインを活用してください。



船堀四丁目付近地区 景観形成ガイドライン

発行：令和4年11月

発行者：江戸川区都市開発部都市計画課都市計画係

〒132-8501 江戸川区中央1-4-1

電話 03-5662-6369